

(議案第1号)

## 平成21年度事業報告について

項 目	内 容
1 世界遺産登録への取り組み状況	<p>(1) 松本市は18年11月30日、長野県と共同で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する世界遺産登録の国内候補を載せた「暫定一覧表（リスト）」に、国宝松本城を推薦する提案書を、文化庁に提出した。</p> <p>(2) その後、文化庁の審査で「継続審議案件」となり、19年12月再提案書と検討状況報告書を提出し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」で研究を進めることを報告し、20年3月、世界文化遺産特別委員会ワーキンググループのヒアリングを受けた。</p> <p>(3) また、1、2月には松本市長と彦根市長・犬山市長の間で今後「近世城郭群」で研究を進めることの合意が得られ、3月に事務レベル会議を実施した。</p> <p>(4) 20年9月には、文化庁文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会から「カテゴリーI b」に該当という審議結果を受けた。</p> <p>(5) 彦根市、犬山市と国宝四城近世城郭群での研究を進めるとともに、文化庁からの課題である「城郭及び城下町等の世界的視野での普遍的価値」について研究を進めてきた。</p>
2 松本城関係文化財の保護活動	<p>(1) 西総堀土塁（土井尻）の整備に向けた実施設計及び工事施工。22年度には、土塁を表示した歴史公園として供用開始。</p>

	<p>(2) 南・西外堀復元と内環状北線（先線）の一体的整備に向けた地元説明会の開催</p> <p>(3) 松本城下町、松本藩に関係した文化財の指定（市重要文化財4件、市特別史跡1件）</p> <p>(4) 松本城下町関係文化財の調査報告書の刊行（市重要文化財旧念来寺鐘楼）</p> <p>(5) 市重要有形民俗文化財「松本城下町の舞台」の修復事業に対する補助金の交付</p> <p>(6) 城下町文化財の「登録文化財」への支援</p> <p>(7) 「まるごと博物館」構想の推進</p>
<p>3 啓発・PR活動</p>	<p>(1) 「国宝彦根城・犬山城見学会」の実施 世界遺産登録の気運を盛り上げ、彦根・犬山との連携をはかるため2城の現地見学研修をおこなった。2月16日に45名の参加者が彦根市・犬山市の担当者より現地で案内説明を受けた。</p> <p>(2) 「松本城検定親子クイズ」の実施 国宝松本城の歴史や知識についてクイズ形式で小学生に学習させ松本城へ興味をより持たせ関心を高める目的で実施。3月27日に親子15組35名が参加。Mウイングで学習した後、松本城を管理事務所研究員の案内で現地実習した。</p> <p>(3) ホームページ 公式ホームページで「松本城下町探訪」（松本城管理事務所提供）を週1回合計51回掲載した。</p> <p>(4) 松本城・旧開智学校写生会、展覧会への協賛 松本市教育委員会などの主催。写生会は21年10月4日に実施。展覧会は22年1月21日より26日、応募作品395点を「井上」で展示した。</p>

	<p>(5) 松本城・旧開智学校絵画展開催 (22年3月9日より4月8日) 同展覧会の特選から銅賞作品36点を八十二銀行松本営業部ギャラリー(大名町)で展示した。</p>
<p>4 世界遺産保護、文化財保護活動との協力</p>	<p>(1) ICOMOS(国際記念物遺跡会議)へ会員としての協力</p> <p>(2) 日本ユネスコ協会連盟の運動への協力</p>
<p>5 世界遺産にかかわる調査、研究活動</p>	<p>(1) 国宝四城近世城郭群研究会担当者会議を実施し、調査研究及び情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回研究会 5月27日(松本市)</li> <li>・第6回研究会 7月27日(彦根市)</li> <li>・第7回研究会 1月23日(犬山市)</li> </ul> <p>21年度からICOMOS等に関わる専門家を招いて研究会を引き続き実施。</p> <p>(2) ICOMOS、UNESCO等関係団体の動向調査、情報収集</p> <p>ア 2009年6月22日から6月30日にスペインのセビリヤで行われた、第33回世界遺産委員会は新たに13件を登録して、ドイツ「ドレスデン、エベル溪谷」は削除されたので、全890件となった。(自然遺産176件、文化遺産689件、複合遺産25件)</p> <p>イ 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」(新潟県)と「百舌鳥・古市古墳群」(大阪府)文化審議会特別委員会は、6月14日上記の2件を世界文化遺産国内候補として暫定リスト掲載することを了承した。政府は近く追加掲載を正式決定する。</p> <p>ウ 「平泉―浄土思想を基調とする文化的景観」</p>

(岩手県)は、2008年の第32回世界遺産委員会で記載延期(※1)になった。構成遺産数を9資産から「中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山、柳之御所遺跡」の6資産に絞り込んで「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として2011年第35回世界遺産委員会での登録をめざして再提出をする。

(※1) 記載延期・・・世界遺産としての顕著な普遍的価値の証明そのものが十分でよく更なる調査研究が必要。

エ 近年、世界遺産の新規記載数を極力抑制し、専門的な評価を厳格に行う傾向にあり、新規記載は、厳しくなっている。

### (3) 国内他地域の動向、情報収集

#### ア 「国立西洋美術館・本館」(東京都)

フランスをはじめ6か国で記載を目指す、「ル・コルビジエの建築と都市計画」には、国立西洋美術館・本館(東京都)が含まれ、第33回世界遺産委員会でその基本的意義は認められたものの20世紀の巨匠建築家により大陸、地域を跨る構成遺産群として、顕著な普遍的価値を証明することや共同管理計画の必要性などの具体的な課題を付され登録に至らず「情報照会(※2)」の決議がなされた。

(※2) 情報照会・・・世界遺産としての顕著な普遍的な価値があることは、証明されているが、補足情報が必要。

#### イ 「善光寺と門前町」

提案書作成にあたり専門分野の有識者によるワーキンググループを編成し、信仰資産では他と類似するため、信仰を核とした寺院・宿坊群・仲見世・門前を有する「生きている善光寺門前

町」というコンセプトに集約し、19年12月、資産の名称を「善光寺と門前町」に変更して再提案書と検討状況報告書を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

ウ 「妻籠宿・馬籠宿と中山道」

19年3月南木曾町と中津川市は、両市町にまたがる資産構成内容を検討し、歴史的人物や文学作品等も視野に入れ、共同で再提案することに合意し、19年12月資産の名称を「妻籠宿・馬籠宿と中山道－『夜明け前』の世界－」に変更し両県と共同で再提案書等を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

エ 「岡谷の製糸遺産」の新規提案

19年9月、岡谷市は「日本製紙業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」を新規に文化庁へ提案書を提出した。結果は、カテゴリーIIに該当

オ 「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」

20年4月、伊那市において推進協議会設立後初めての総会を開催し、世界自然遺産登録に向けた第一歩としてジオパーク（地質遺産を含む地質公園 ユネスコが推進活動を支援）への取り組みを推進していくことを決定した。（長野、山梨、静岡3県10市町村で構成）